



親子で盆踊り

いずみ保育園

お寺の境内で盆踊り：そんな懐かしい風景も、コロナ禍のせいもあり長く遠ざかっていました。今回保育園の園児の皆さんを楽しませてあげたい！地域の方のふれあう場所を提供したい・・・そんな思いが集結して、復活することが出来ました。

すると、小さいおともだちも親子で櫓の周りを歩き始め、会場は一気に賑やかになりました。職員のおもちゃ屋さんとポテト屋さん、お寺のおにぎり屋さん、おしゃおこさん、たこ焼き屋さん等：どこも大盛況となりました。

夕暮れ時から、浴衣や甚兵衛を身に纏い、おうちの方と手を繋いで嬉しそうに集まってきた園児達。子ども盆踊りの曲に合わせてゆり組たんぽぽ組のおともだちが踊り始め

長万部太鼓さんの威勢のいい音が響く中、園児も卒園生も地域の方々も楽しいひとときを過ごしました。ご協力いただいた多くの方々への感謝を忘れずに、この風景を守っていききたいと思っています。



北海道・長万部キャンパスの近況

東京理科大学北海道・長万部キャンパス

学寮が再開されてから、今年度で4年目となり、国際デザイン経営学科（IDM）の1年生から4年生はほぼ全員、学寮経験者となりました。8月に東京の富士見校舎で行われた「オープンキャンパス（OC・高校生等が大学を見学する催し）」に、私も初めて参加しましたが、OCのスタッフのIDMの2年生から4年生の皆さんが、私を見つけると「長万部が懐かしい」と

「また長万部に帰りたい」と異口同音に話しかけてきました。彼らの多くは、長万部に「行く」でなく「帰る」という表現をするのですが、これは、IDMの学生にとって、長万部町はかけがえのない「第2の故郷」となっていることを示しているようにも思えます。

町の皆様のご協力のおかげです。ケガニの研究のこれまでの成果に関しては、10月25日（日）に行われる「令和8年度 北海道そば大学 in 長万部学舎」内の講演（学習文化センター）にて、報告する予定です。講演には町の方々は、無料で参加できますので、お越しただいただければと思います。

そんなIDM生は、今年もコ・デザインプロジェクトの授業で、町の皆様には大変お世話になりました。初めてプロジェクトの成果を「ポスター」にまとめて発表会を行いました。が、学科名に「デザイン」という言葉が含まれているだけあって、化学系学会などでは見たこともない、工夫を凝らしたポスターが出来上がりました。

2025年4月に特別採捕で採取したケガニも1年5ヶ月を超えて、元気に生きております。自分の持つケガニの陸上飼育最長記録の1年7ヶ月を超えるかもしれないと思っております。また、今年はケガニの育成装置に関して、特許申請も行えるところまで来ました。これもひとえに、

最後になりましたが、10月24日（土）10時より15時まで、本学の「エソール会館」にて「学寮祭」を行います。ぜひともお越しただいただければと思います。

（東京理科大学 竹内 謙）



写真で見る学校の様子

長万部高等学校



9月5日
ニセコ号販売実習(1)



9月5日
ニセコ号販売実習(2)



9月10日 一日防災学校

長万部中学校



8月30日
全道吹奏楽コンクール出場



9月4日
高校生のインターンシップ事業



9月5日
少年の主張全道大会

長万部小学校



9月2日
2年生台湾からの留学生温さんと交流



9月3日
4年生総務課の方と避難所体験



9月8日・9日 森
5年生ネパール森で宿泊研修

地域に根差した「防災教育」の推進

長万部小学校長 寒河江 孝之

今年度、長万部小学校では重点目標の一つに「防災教育」を掲げています。全国各地で想定を超える自然災害が相次ぐ中、学校現場には従来の火災や地震を想定した一律の避難訓練だけでなく、地域の課題に応じた独自の備えが求められているからです。海に面した長万部町では津波への警戒が不可欠です。また、近年は集中豪雨によるJR線の路盤流出やヒグマの出没など、身近な危険も多様化しています。こうした背景から、まずは子どもたち一人一人が自らの命を自分で守る「自助」の精神を身に付けることを目指しています。

記憶に新しいのが、昨年七月三十日に発生したカムチャッカ半島地震です。当日は夏季休業中で校内には教職員しかいませんでしたが、突然の津波警報に緊迫した空気が走りしました。本校は洪水の避難所ですが、津波には対応していません。そのため、過去に全校児童で避難訓練を行った実績のある東京理科大学へ直ちに避難しました。大学へ到着すると、自力で避難してきた何人かの児童の姿があり、訓練の成果を実感した瞬間でした。

一方で、多くの課題も浮き彫りになりました。実際の災害は猛暑や吹雪など過酷な環境下でも起こります。確実な保護者への引き渡し、水や食料、トイレの確保、雨露をしのぐスペースなど、想定すべき事項は多岐にわたります。中でも情報収集の難しさは、大きな教訓となりました。

これらを踏まえ、今年度、津波注意報を踏まえた校舎垂直避難訓練の実施や函館気象台の職員から津波と液状化について学んだほか、「一日防災学校」では段ボールベッドを使った避難所設営を体験するとともに、普段遊んでいる公園などからの避難ルートを考える机上訓練も行っています。



気象台による津波実験

一連の学びを通して、子どもたちには「自助」から、周囲と助け合う「共助」の精神を育んでほしいと願っています。学校は今後も子どもたちに向き合い、寄り添い、非常時でも確実にその命を守るよう、安全・安心な環境づくりに努めてまいります。